

報道各位

ヴィラ九条山新館長にシャルロット・フーシェ=イシイ

アンスティチュ・フランセ日本/在日フランス大使館は、京都のヴィラ九条山の新館長としてシャルロット・フーシェ=イシイが任命され、2017年5月1日付けで就任する事をご案内いたします。

シャルロット・フーシェ=イシイはパリ・ドフィーヌ大学の文化マネジメント科を卒業。2004年のソウル・ランデブー・フェスティバルで芸術監督を務め、イル・ド・フランス・フェスティバルや国立パリ・オペラ劇場など、多数のコラボレーションに携わりました。その後5年間にわたりケー・ブランリー美術館でメディエーションおよびイベントの責任者として勤務。2011年から2015年にかけてはプラハのアンスティチュ・フランセ・チェコで代表代理と文化アタシェを兼務。2016年3月からはアンスティチュ・フランセ・パリ本部のセゾン・プログラムのゼネラル・コーディネーターを務めています。

フーシェ=イシイは、2014年10月のリニューアル・オープン以降、ヴィラ九条山の運営を担ってきた日仏コンビ、クリスチャン・メルリオと大江ゴティニ純子からバトンを受けてヴィラ九条山の館長に就任します。なお、大江ゴティニは、専門コンサルタントとしてヴィラ九条山を側面から支援し、アーティストのレジデンス開始前と終了後のフォローを担い続けます。

1992年に京都で設立されアーティスト・イン・レジデンス、ヴィラ九条山は、仏外務省の文化外交ツールの中でも異色の、研究と創作の場で、ローマのヴィラ・メディチをモデルとしています。在日フランス文化ネットワークの中に組み込まれているアーティスト・イン・レジデンスであり、日本に展開するアンスティチュ・フランセ日本の5支部の一つです。

ヴィラ九条山は、日本と関わりのあるプロジェクトを実現しようとするアーティストや研究者を毎年12名ほどレジデントとして受け入れています。レジデントは、京都はもちろん、日本全国の美術界、大学界、文化界と仕事関係を結ぶことが求められます。

ヴィラ九条山はピエール・ベルジェ氏の出資により建物の改修工事が行なわれ、2014年10月のリニューアル・オープンにいたりました。また、リニューアル・オープン以降の活動資金はベタンクールシュエーラー財団からの寄付とアンスティチュ・フランセからの補助金によって賄われています。

創立以来、芸術や文学など様々な分野のレジデントを300人近く受け入れてきたヴィラ九条山は、今年で創立25周年を迎えます。

プレスお問合せ

津田桜 (アンスティチュ・フランセ日本 広報&メセナ部門主任)

sakura.tsuda@institutfrancais.jp

Tel : 03-5798-6008